

---

---

# テスト設計の アピールポイント

— 雪海桃山 —

---

---

# 目次

# 1. チーム紹介

- チーム名：雪海桃山（ゆきみももやま）
  - メンバーの出身地に因んだ漢字を組み合わせた
- メンバー：2名
  - 村上
  - 川上

## 2. テストベース情報

- テスト対象：Warikanアプリ
  - 割り勘を支援するためのスマートフォンアプリケーション
  - 食事会などで2グループで支払割合を調整する場面を想定
  - 「Nomikui会」の付属アプリケーション

## 2. テストベース情報

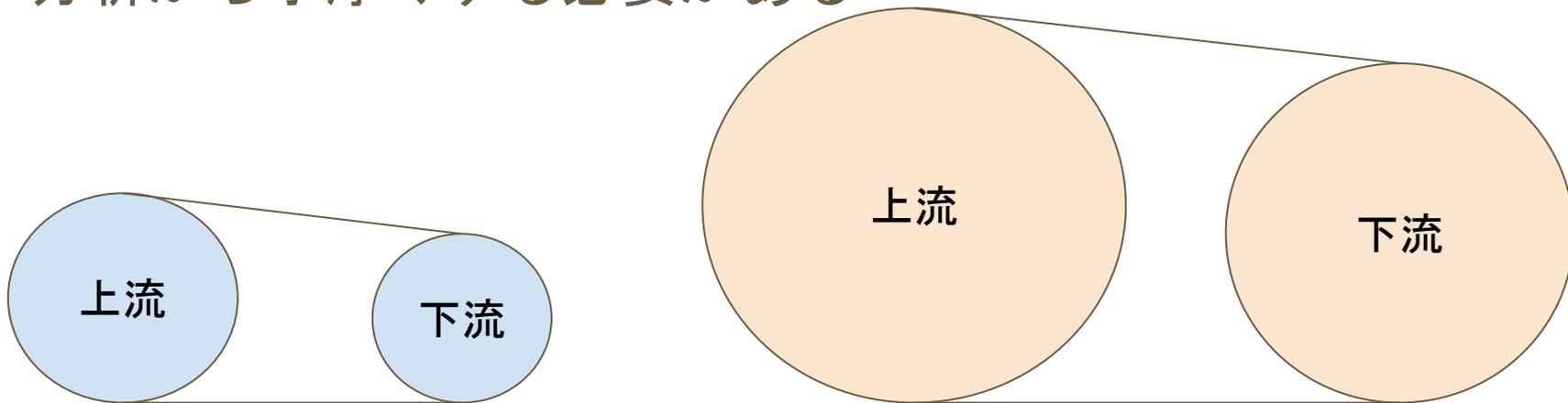
- システムテストの目的
  - 用途を満たしていることを確認
  - リリースできる品質レベルであることを確認
  - テストベースへの改善のフィードバックを行う

## 2. テストベース情報

- システムテスト担当チームの責務
  - 高頻度の仕様変更 / リリースへの対応
  - テストの再現性の確保
  - テスト活動の工数はなるべく小さく実施できるようにする

### 3. テスト設計の全体目標

- 下流で実施できるテストを手厚くするためには上流での分析から手厚くする必要がある



## 4-1. テスト設計の目標①

- テスト対象分析について、テストベースからどれくらい離れた情報かを意識して分析する
  - テストベースから直接得られる情報
  - 得た情報から二次的に得られる情報
  - 自分の解釈や経験から補完した情報

## 4-2. テスト設計の目標①の狙い

- 分析した情報の出所について意識ができる
  - テストベースから網羅できている部分が可視化できる
  - 仕様の確認のみになったり、逆に自分の解釈での確認ばかりにならないようにできる

# 4-3. テスト設計の目標①の結果

## 画面UI一覧

画面UI一覧

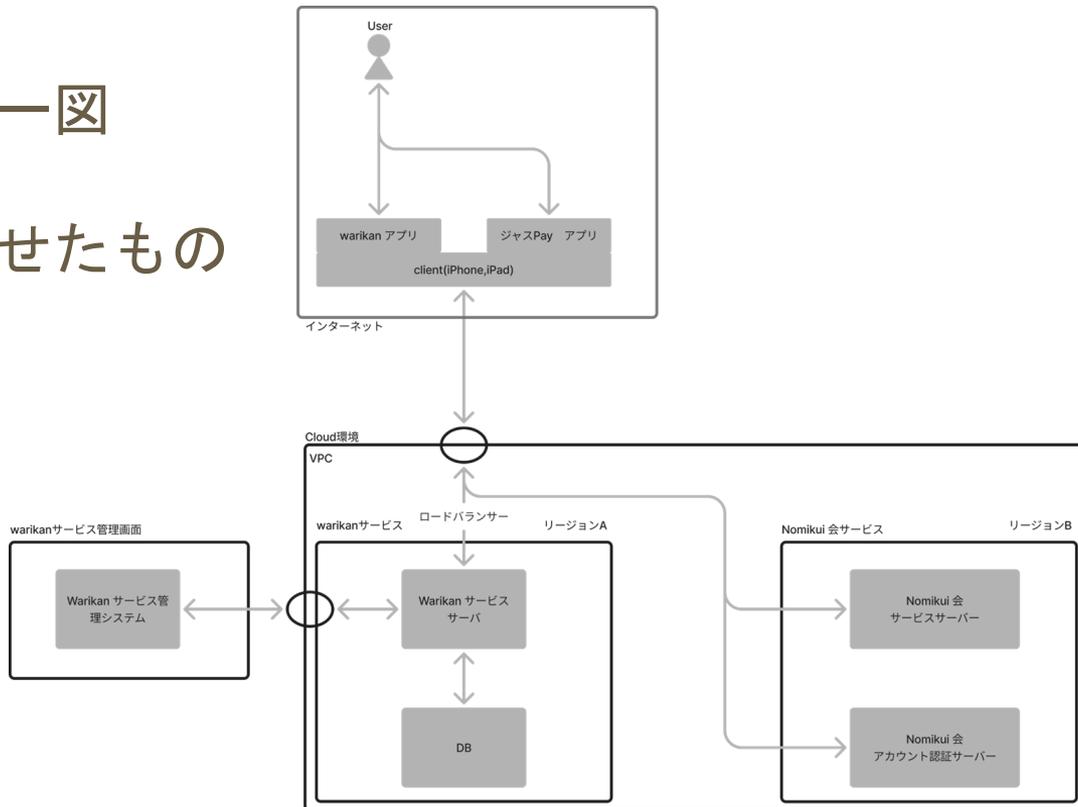
直接の情報の整理

ID	画面	UI		要素
UI-001	ログイン画面	ヘッダー	ロゴ	表示
UI-002		ユーザID欄	ラベル	表示
UI-003			入力欄	入力操作
UI-004		パスワード欄	ラベル	表示
UI-005			入力欄	入力操作
UI-006		アカウント情報を記録する	チェックボックス	入力操作
UI-007			テキスト	表示
UI-008		ログインボタン	ボタン	タップ操作、処理実行
UI-009		新規登録リンク	リンク	タップ操作、画面遷移
UI-010		エラー通知ポップアップ	ポップアップウィンドウ	タップ操作
UI-011			テキスト	表示
UI-012	割り勘計算画面	ヘッダー	ロゴ	表示
UI-013		自分側の人数欄	ラベル	表示
UI-014			入力欄	入力操作
UI-015		相手側の人数欄	ラベル	表示
UI-016			入力欄	入力操作
UI-017		金額欄	ラベル	表示
UI-018			入力欄	入力操作
UI-019		支払割合	ラベル	表示
UI-020			スライダー	入力操作

## 4-3. テスト設計の目標①の結果

システムアーキテクチャー図

情報に解釈を加え膨らませたもの



## 4-3. テスト設計の目標①の結果

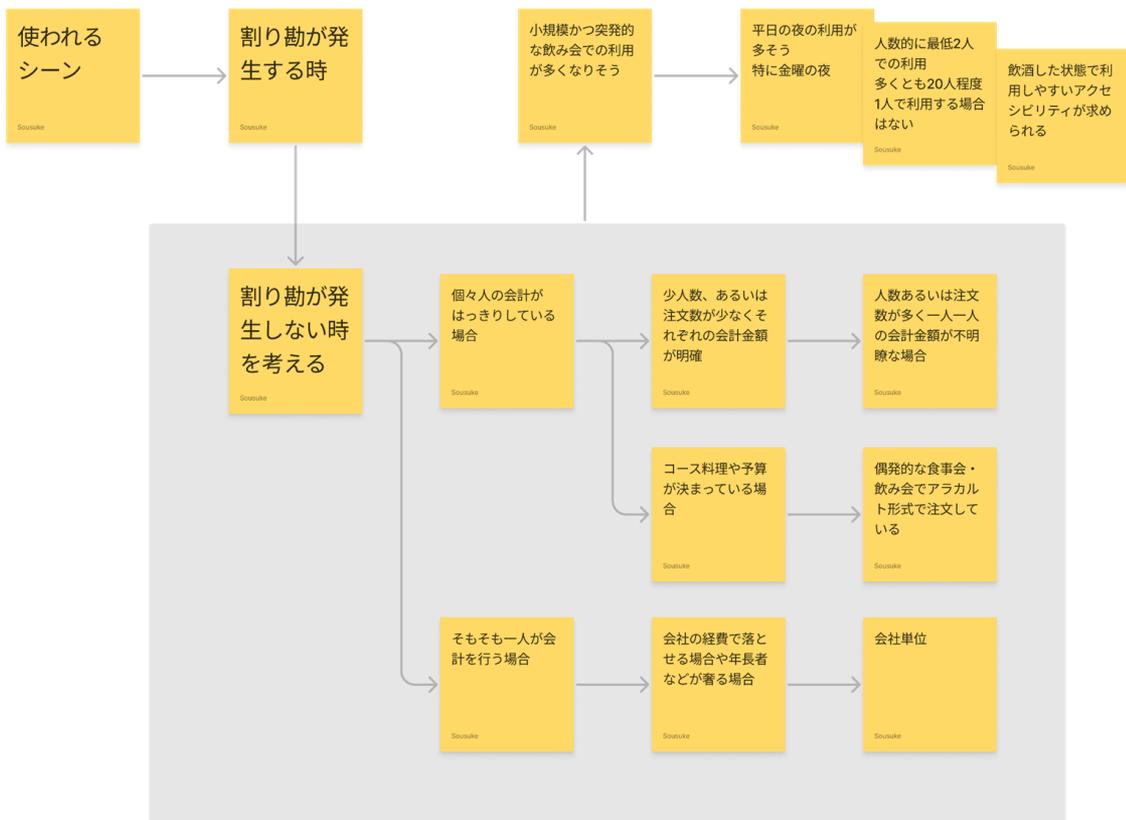
- どれくらい直接的な情報か、自分の解釈が入っているかを意識できた
- 同時に思い切って普段のテスト設計とは異なる視点からテスト対象を分析することができた

## 5-1. テスト設計の目標②

- テスト対象分析できるだけ多くの視点から分析し情報を増やしていくことで分析結果を発散させる
  - 上流工程で得られる情報を増やし、しっかりと取捨選択した上で下流工程に進める

# 5-2. テスト設計の目標②の結果

## Warikanアプリの 利用シーンの分析



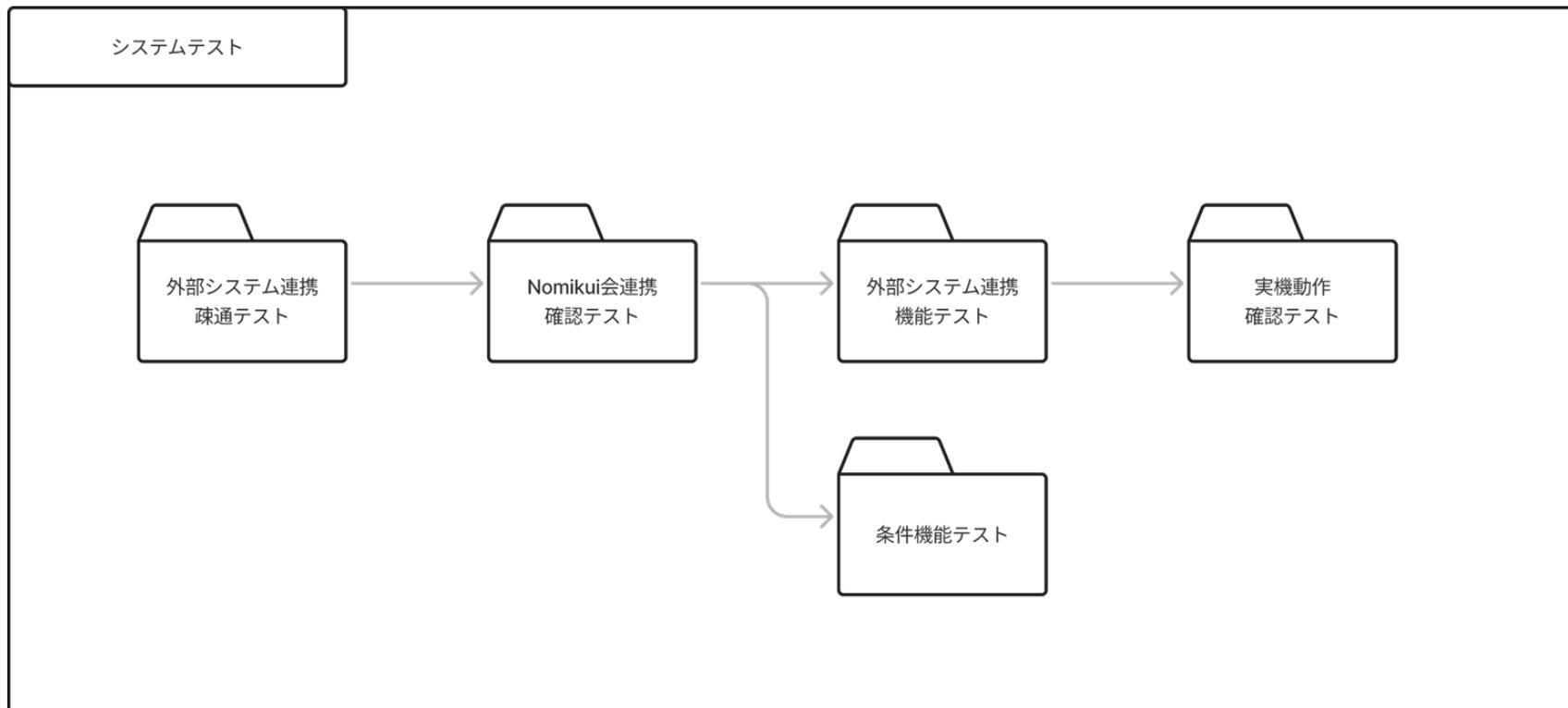
## 5-2. テスト設計の目標②の結果

- ただの仕様だけでなく、ユーザーの利用シーンなどステークホルダーに深く寄り添った分析ができたと感じている

## 6-1. テスト設計の目標③

- テスト要求について分析を行い、それを使ってアーキテクチャ設計でのテストに意味を持たせる
  - 予選時、アーキテクチャ設計は単に対象の仕様を粒度の低い方から見るテストにしてしまっていた

## 6-2. テスト設計の目標③の結果



## 6-2. テスト設計の目標③の結果

- 自分なりに根拠を持ってアーキテクチャの設計を行えた
- テストとして意味のあるものにできるかはこれから繰り返して向上させていきたい

## 7. まとめ

- テスト対象分析やアーキテクチャ設計など、上流から情報を手厚くする目標はクリアできた
- それを下流に繋げることができなかつたため、それを今後の課題としたい